

こどもの居場所+フード&ライフパントリーネットワークづくり事業

事業主体 名称：一般社団法人ジンジャー・エール
住所：岡山県備前市日生町寒河1037-1
事業実施場所 コミュニティカフェ天goo 他

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

ネットワークづくり事業：「こどもの居場所」交流会・研修会の開催

<目的>

- ・備前市内でこどもの居場所(こども食堂)を開設している団体との交流会を開催し、各団体の現状把握や改善点の洗い出しを行う。
- ・今後ネットワークを広げていく核となるような協力体制を構築することを目的とする。
- ・こどもの居場所の活動の質の向上につなげる。

<概要・方法>

- ・備前市内でこどもの居場所を開設している団体や個人で開設している居場所の開設者・こどもの居場所に興味のある個人や団体の方々と年数回の交流会や年に1回の研修会を開催する。

協働実施推進事業：フード&ライフパントリーネットワークづくり事業

<目的>

- ・こどもの居場所のネットワークを作るとともにフード&ライフパントリーのネットワークも同時に作っていくことで困難を抱えているこどもや家庭にとって生活の支援や必要な支援の一つとなっていくことを目的にする。
- ・備前市内のネットワークを使用し、各拠点に食品や生活物資を届け、小さい規模のフード&ライフパントリーを開設し、困難を抱える家庭等に必要な支援を届ける。
- ・フードドライブの開設を行ってくださる企業や店舗・関係機関を探し、フードパントリーで配布できる食品や物資を増やしていく。
- ・寄付をいただいた食品や物資が少しでも多くこどもたちに届くことをねらう。
- ・リユース会を社会福祉協議会との協働で開催し、また、備前市のこどもの居場所のネットワークの団体にも協力いただきながら、必要な方に必要な衣類が届くようにし、生活の困り感解消や生活の手助けとなるようにする。

<概要・方法>

- ①ミニフード&パントリーの開設
- ②食品製造会社様との協力体制構築
- ③フードドライブの場所新規開設
- ④こども服のリユース会開設
- ⑤夏休み昼ごはん支援(他団体や企業様と)

～事業実施内容～

事業名 <「こどもの居場所」交流会の開催>

■1回目 <中核となるような団体で交流会の開催内容について打ち合わせをする>

- 1)参加者数 3団体代表者3名（渦の家・f-saloon・ジンジャー・エール）
- 2)実施日時 令和6年11月25日（月）17：00～18：00
- 3)実施場所 任意団体 渦の家を育てる会拠点
- 4)実施内容 第1回目の備前市の交流会を開くにあたっての日程や内容の調整
- 5)活動の成果等

●当団体とのつながりのある団体の代表の方にお声かけをし、集まった3団体の代表者に時間をとっていただき、備前市のこどもの居場所ネットワークを作りたい旨、内容の相談や交流会や研修会を開設したい企画案を話す機会をいただいた。

- ・こどもの居場所開設者同士の親睦を深める場や情報交換の場・学びの場づくりができ、よい関係性ができ、いろいろな協力体制を作ること。
- ・こどもの居場所活動の質を高めていくこと。
- ・こどもの居場所のネットワークを作ること、寄付金や寄付の食材や物資を分け合ってこども食堂で活用し、活動の継続性を持たせる仕組みづくり。
- ・ネットワークを活用して、地域の各地区でその食材や物資を必要な方に届けるフードパントリーやフードバンクの活動をしていただき、支援が必要な方に近い場所で必要なものが取りこぼさずに届く仕組みをこのネットワークを通じて作っていく。

以上の仕組みづくりを今後やっていきたいので、まずは会を開設することに協力してほしい旨を伝えた。

●第1回の全団体での交流会の日程決めた。

●備前市内でこどもの居場所（こども食堂）を開設している方の洗い出しをお願いする。その後、当団体と協力しながら、参加団体に案内状を配布し、参加の声かけの協力を依頼した。

■2回目<第1回備前市こどもの居場所交流会>

- 1)参加者数：15名

市内6団体代表者8名（渦の家1名・f-saloon2名・イングリッシュクラブ1名・西方寺1名・香登教会2名・ジンジャー・エール1名）・ソーシャルワークセンターつばさ代表者1名・社会福祉協議会2名・備前市役所1名・備前県民局3名

- 2)実施日時 令和6年12月18日（水）10：00～12：00

- 3)実施場所 備前市市民センター4階第1会議室

- 4)実施内容 ①アイスブレイク・自己紹介

②各団体の取り組み紹介

③普段感じている悩みや他の団体にきいてみたいこと

④今後の連携・こども居場所ネットワークづくりについて提案

- ・研修会や交流会の開催について
- ・「こどもの居場所マップ」づくりについて
- ・ソーシャルワークセンターつばささんより
- ・備前フードバンクにここの活動紹介

（ネットワークを活用しての食材の受け取りやフードパントリー開設のお願い・こども



5)活動の成果等

- 当日までに、他の団体の協力もあり、現在、市内で開設している7団体の存在がわかり、それぞれの地区で必要な場所になっていることを知ることができた。
- 参加を呼びかけるとどうしても参加が難しい団体が1団体あったが、6団体が参加していただけたことは、本当に大きな1歩であった。
- また、こどもの居場所に関する、中間支援組織の団体・市内社会福祉協議会・こどもの居場所活動の管轄課である備前市こどもまんなか課・備前県民局の方々も同席下さり、市内の活動状況を知ったり、理解してくださったり、またアドバイスや情報提供していただけたことは、会にとってとても有意義だった。
- それぞれの団体の取り組み紹介から始めた会だったが、個々の団体同士のつながりはあったりするが、全体が集まったりすることは初めてで、関わりがなかった団体同士もある現状だったので、初めましての会として、取り組み紹介からはじめ、お互いを知ることから会を持てたことも意義深かった。
- 現状を話す中で、それぞれの取り組みの中での悩みや不安・疑問など、次々と出てきた。いろいろな形の居場所や各団体がいろいろな取り組みの段階にあることがわかり、悩みや疑問などもそれぞれだったが、活発な意見交換ができた。
- パンフレット作成を提案したが、居場所の宣伝になるようなパンフレットではなく、こどもの居場所を応援したい方に届くようなパンフレットにしてほしいという要望が大ききようだった。当団体が目指していた、「こどもの居場所を周知する」という意味合いが大きいパンフレットはあまり望まれていないことがわかった。現状として、こどもたちの利用はそれぞれの形で安定してきているので、支援の輪を広げていきたい思いの強さを感じた。要望を取り入れながら、どちらも周知できるパンフレット作成にしていく。
- 備前市内の団体の方々とLINE交換をする機会にもなり、実際にこの交流会以後、情報の共有をLINEでできるようになり、フードパントリーの食材提供のこと・フードドライブの連絡・新規立ち上げ団体からの質問などのやり取りが継続的にできてきている。距離感もすごく近くなった。

■3回目＜第2回備前市こどもの居場所交流会＞

1)参加者数 31名

市内6団体代表者13名（f-saloon1名・イングリッシュクラブ2名・西方寺1名・香登教会3名・ピアチャーレ2名・ジンジャー・エール4名）

市外8団体代表者・備前日生信用金庫・備前市社会福祉協議会・備前市こどもまんなか課・備前県民局

2)実施日時 令和7年2月7日（金）14：50～16：00

3)実施場所 備前市市民センター4階第1・2講習室

4)実施内容 ①こどもの居場所の情報交換会（グループ討議）

- ・ 普段感じている悩み相談や他の団体に聞いてみたいことなど質問タイム）
- ・ グループ発表
- ・ 質疑応答 直島先生より

②連絡

- ・ AMDA からの物資提供について
- ・ 備前県民局より
- ・ 備前市こどもまんなか課より
- ・ フードドライブについて
- ・ 「こどもの居場所マップ」について



5)活動の成果等

- 1 団体、欠席だったが、他の備前市内の団体の方々がほとんど参加してくださり、情報交換などがお互いしやすくなってきている姿が見られ、ネットワークの大切さや距離を縮めることができる良さを回を重ねるごとに感じる事ができる。
- はじめは、備前市内のこどもの居場所の関係者に絞ることも考えたが、和気町・瀬戸内市・赤磐市・岡山市など他の市町のネットワークにも声かけをし、参加者を募ったところ、備前市はもちろん、他の市町からも参加してくださり、交流することができ、よい機会となった。
- これから始めたい方や今現在開設している方なども交じって話をしたが、さまざまなフェーズでの質問や悩みなどがたくさん出て、時間がまだまだ足りないくらいだった。質問などをグループ内でも話す時間と講師の直島先生に質問して聞く時間を持つことができたので、今後に活かすことができることがたくさんあったように思う。
今回は、広く悩みや質問を出し合い、話し合う時間だったが、悩みのテーマごとに分かれて話す時間が持てるとよかったと感じた。
- いろいろなフェーズや立場の方がグループにいたからこそ、話の内容がバラエティに富んでいる様子も見られた。
- 講師の先生や備前日生信用金庫さんのご協力により、実際に食材や生活用品の提供の場も設置し、ネットワークで食材を分け合う仕組みづくりを体験できたことは、皆さまにイメージしていただきやすく、よかったように思う。

事業名 <「こどもの居場所」研修会の開催>

■ 1回目

1)参加者数 31名

市内6団体代表者13名（f-saloon1名・イングリッシュクラブ2名・西方寺1名・香登教会3名・ピアチエーレ2名・ジンジャー・エール4名）

市外8団体代表者・備前日生信用金庫・備前市社会福祉協議会・備前市こどもまんなか課・備前県民局

2)実施日時 令和7年2月7日（金）13:30～14:40

3)実施場所 備前市市民センター4階第1・2講習室

4)実施内容 ①講演会

「こどもの居場所（こども食堂）に求められることとは
～こどもを取り巻く状況と支援について～」
川崎医療福祉大学 直島 克樹 先生



5)活動の成果等

- 備前市のネットワークづくりができたところで、こどもの居場所の考え方や今の置かれている状況などを
知り、方法はさまざまでも大切にしていきたい方向性はきちんと共通した理解を持つことが必要ではないか・質の向上につながるのではないかと考えて開催したかったので、それぞれの団体が参加してくださり、みんなで講演を聞いたことは大きな成果であった。
- これからはじめてみたい方や興味がある方・他の市町で開設されている方など、いろいろな方が講演にご参加くださり、一緒に学ぶ機会持つことができたことは成果であるし、新たなネットワークやつながりが持てる非常に良い機会となった。

事業名 <フード&ライフパントリーネットワークづくり事業>

■①ミニフード&ライフパントリーの開設

当団体毎月2回+他団体にも依頼・分配しパントリー開設

1)参加者数

＊別紙参照 配布記録参照

2)実施日時 令和6年7月～2月 当団体：こどもの居場所の時間内
他団体：子育て支援拠点開設時間内

3)実施場所 コミュニティカフェ天 gooo 内

4)実施内容 フード&ライフパントリーの開設



■②食品製造会社様との協力体制構築

<ねらい> 備前日生信用金庫さんからお声かけをいただき、県内の信用金庫さん主催の商談会に参加させていただき、食品製造会社さまやフードロス対策などに力を入れておられる企業さまと懇談をさせていただき、協力を得られるように依頼する機会をいただいた。活動内容やフードバンクの活動にご協力をいただきたい旨を説明した。

1) 参加者数

懇談企業数 10 社程度・依頼チラシ配布企業 30 社程度

2) 実施日時 令和 6 年 9 月 11 日

3) 実施場所 コンベックス岡山

4) 実施内容 食品製造会社等との懇談

5) 活動の成果等

- 県内各地の様々な企業さまが集まる会だったので、市内だけでは難しかった食品製造会社との出会いがあったり、食品以外の会社さまもこども食堂の活動に興味を持って説明を聞いてくださったりして、今後につながっていくような出会いもあった。

実際にこの会の後に拠点を訪ねてくださり、食品を寄付してくださった企業さまが 2 件あった。とてもありがたいことだった。

- なかなか企業様とこんなに一度に話ができる機会がなかったので、とても有意義な時間になった。こども食堂は知っておられても、実施に何に困っていたり、どんなことを求めているのかかわからないことがあったという感想もいただき、具体的に協力を得られるように説明できる資料を用意することやこういった機会を活用することも必要なことだということを実際にやってみて感じた。



■③フードドライブの場所新規開設

<ねらい> 市内商店・スーパー・ホームセンター・企業・銀行・施設などにフードドライブのコーナー（思いやり♡BOX）を設置していただき、来店者さまや従業員のご厚意で食品や生活用品などの寄付を集めていただき、それを当団体が回収し、各こどもの居場所等に配布し、こども食堂で使用したり、各こどもの居場所で必要な方々に配布していただいたりする仕組みを作る。

1) 参加者数

フードドライブコーナー設置協力企業さま

備前日生信用金庫様市内 6 店舗・日生青果さま・ホームセンターナフコさま・パオーネさま・日生中央公民館さま・備前市役所さま・ファミリーマートさま・松木鉄工所さま

2) 実施日時 12 月より常設設置

3) 実施場所 各店舗・企業

4) 実施内容 フードドライブコーナー設置

5) 活動の成果等

- 普段からお世話になっている備前日生信用金庫さまが、以前からフードドライブの活動に理解や協力を

してくださっており、市内の店舗に設置していただけないかと依頼すると快く設置を承諾してくださり、市内の全店舗の6店舗にコーナー設置をしていただくことができた。

- 各地域に支店があるので、回収を当団体がするのではなく、支店に近い団体が回収に行くことにし、ネットワークで分け合える仕組みを作った。回収の時の交換箱・回収者の証明書を発行し、ネットワークの所属団体がきちんと回収に来ることが、各店舗で理解できるように「マニュアル」のようなものも作り、周知した。他の団体と備前日生信用金庫さまとのつながりもできていくと思われるので、よい仕組みとなったように感じている。
- このネットワークとドライブの仕組みができたことによって、支援が必要な方々が、自分の行きやすい各団体の拠点で食品などを受け取れることが可能になった。ネットワーク・ドライブの仕組みはまだまだ整えないといけないが、仕組みを活用する方法ができたことは、支援が必要な方にとっても各団体にとっても大きいと感じる。



■④こども服のリユース会開設

1回目

1)参加者数

約100世帯 200名

2)実施日時 令和6年8月3日 9:00～準備 11:00～15:00

3)実施場所 備前市市民センター2階講義室

4)実施内容 こども服・こども用品リユース会

5)活動の成果等

- 今年度も子育て中の方から要望や問い合わせが多数あり、社会福祉協議会さまと協議したうえで、協働で開催できることになった。すぐにサイズアウトするこども服を寄付したい方や少しの期間使えたら助かるという方など、参加者の方も含め、いろいろななかかわり方やいろいろな関係機関でこのリユース会の開催につながっていることがいい形であると感じている。
- 年何回がよいのか、開催場所や時間など今後検討していくべきことは、たくさんあるが、必要としている方がたくさんおられるということは、今後もつなげていくべき活動であることを感じる。



2回目

1)参加者数

約80世帯 100名

2)実施日時 令和6年11月3日 9:00～準備 10:00～14:00

3)実施場所 日生地域公民館 備前市久々井総合運動公園体育館

4)実施内容 子ども服・こども用品リユース会

5)活動の成果等

- この日の日生町文化祭での開設と11月9日のこども応援フェスタでの開設と少し小さい規模での開設を分けて行った。当団体が主体となった日生町文化祭では、文化祭に来る機会に来場した方がおられる中で、リユース会を目的に来場している方もたくさんおられ、「もっと回数を多くしてほしい」「服の種類をたくさん集めて出してほしい」などの要望を伝えて帰られる方も多かった。小さい会だからこそ、参加者の要望や意見を聞くことができる貴重な会にもなった。
- 屋内ではなく、テラスという屋外での開催となったが、季節もよく気持ちのよい場の設定となった。イベントと絡めること・場所も屋内に限らずとも開設できることなどいろいろなチャレンジの機会にもなった。



■⑤夏休み昼ごはん支援(他団体や企業様と)

1回目：寒河コミュニティまちづくり協議会さまと昼ごはんクッキング

1)参加者数

小学生13名・中学生3名

2)実施日時 令和6年8月2日

3)実施場所 日生東公民館

4)実施内容 ・寒河まちづくりコミュニティ協議会の方々、地区の栄養委員さんの協力で昼ごはんを作って食べる
・レクリエーションを楽しむ

5)活動の成果等

- 寒河まちづくりコミュニティ協議会のご協力をいただき、こどもたちの夏休み中の昼ごはん支援の機会を持つことができた。こどもの居場所を開設している中で、長期休みの期間のごはん事情が気になっていたもので、相談したところ、栄養委員さんなどにもご協力いただきながら開設できたことは、本当にありがたい、特に地域とのつながりの中で協力しながら、こどもの支援活動ができたことは、今後につながる心強い連携ができたことを感じた。
- こどもたちにとって、作りやすく、楽しみながらできるメニューだったので、ただ食べるだけでない、作るという楽しみもでき、みんなで食事を囲み、素敵な時間を持つことができた。夏休みのよい体験にもなったように思う。



2回目：餃子の王将さんからの寄付の弁当を必要な家庭のお子さんへ配布する。

（夏休み・夜ごはん支援）1回目

1)参加者数

こども園児～中高生：50名に配布

2)実施日時 令和6年8月9日（金）

3)実施場所 コミュニティカフェ天 goo

4)実施内容 餃子の王将さまからの寄付の弁当配布

5)活動の成果等

＊下記にまとめて記載

3回目：餃子の王将さんからの寄付の弁当を必要な家庭のお子さんへ配布する。

（夏休み・昼ごはん支援）2回目

1)参加者数

こども園児～中高生：50名に配布

2)実施日時 令和6年8月20日（金）

3)実施場所 コミュニティカフェ天 goo

4)実施内容 餃子の王将さまからの寄付の弁当配布

5)活動の成果等

＊下記にまとめて記載

4回目：餃子の王将さんからの寄付の弁当を必要な家庭のお子さんへ配布する。

（夏休み・昼ごはん支援）3回目

1)参加者数

こども園児～中高生：50名に配布

2)実施日時 令和6年8月26日（月）

3)実施場所 コミュニティカフェ天 goo

4)実施内容 餃子の王将さまからの寄付の弁当配布

5)活動の成果等

＊下記にまとめて記載

●長期期間中の昼ごはん事情をこどもたちにリサーチしたときに、気になる家庭があったことで、3回目になるがこの企画に応募し、支援をいただくことにした。長期休暇にはいり、仕事と家にいるこどものことを気にかけている保護者の方にとっては、とてもありがたい企画であると反響を見ても感じる。予約制にして募集したが、すぐに枠が埋まる状況であった。保護者からは、本当に助かるといった声を多くいただいた。

●夏につかれている保護者や仕事等で疲れている保護者にとっては、1食でも支援していただけることは大変ありがたいことだと感じ、こどもの支援であるが保護者の支援でもあることを感じる。

●不登校気味な子や家庭に困り感のある子などにもさりげなく声をかけ、受け取りにくることができるようにしたことと、なるべく3回にエントリーできるような配慮を行った。また、受け取りにきたときに、いろいろな話をして今の状況を聞くことやパントリーで確保している食材なども持ちかえることができるようにした。



<協働実施した団体>

①ミニフード&パントリーの開設

フードバンク岡山・岡山こども食堂支援センター・NPO 法人ジャパンハーベスト

②食品製造会社様との協力体制構築

備前日生信用金庫・高取醤油など 食品製造会社さま

③フードドライブの場所新規開設

備前日生信用金庫・ナフコ・商店など

④こども服のリユース会開設

備前市社会福祉協議会・市内 NPO 法人・日生地域公民館・子育て支援拠点 NPO

⑤夏休み昼ごはん支援(他団体や企業様と)

寒河まちづくりコミュニティ協議会・栄養委員・餃子の王将さまなど

<どのような形で協働したか(それぞれの団体の役割等) >

①ミニフード&パントリーの開設

フードバンク岡山・岡山こども食堂支援センター・NPO 法人ジャパンハーベスト

* 食品や生活用品の提供・配送

②食品製造会社様との協力体制構築

備前日生信用金庫・高取醤油など食品製造会社

* 商品の提供や企業さまとのつながりづくり・協力体制構築

③フードドライブの場所新規開設

備前日生信用金庫・ナフコ・商店など

* フードドライブのコーナー設置(思いやり♡BOX) 他団体との連携

④こども服のリユース会開設

備前市社会福祉協議会・市内 NPO 法人

* リユース会の開設・準備・打ち合わせ・回収・広報など

⑤夏休み昼ごはん支援(他団体や企業様と)

寒河まちづくりコミュニティ協議会・栄養委員・餃子の王将さまなど

* 夏休み期間中の昼ごはん・夜ごはん支援

<協働することで得られた効果>

協働で行うことで、1 団体で行うよりも必要な方に届いていく必要な支援の量が物理的にも人の気持ちや関わりの量的にも多くなっていくことを実感した。

支援を必要とする方に必要な支援が届いていき、ネットワークでつないでいくことで更に支援が届きやすくなり、取りこぼす方が少なくなることも同時に感じた。

活動に関する理解を持ってくださる方が増え、活動に関する共通理解ができていく。

<協働実施をすることで得られた団体のメリット>

当団体のことや活動のことを理解してくださる方が自然に増えてきたこと。

こどもたちに届けたい支援が届きやすくなった。

ネットワークを構築できたことで、お互いの活動を支えあう仕組みができたことはありがたく、点ではなく、面になって子どもたちを支援できてきていることを感じることもできた。

市からの助成だけでは厳しい状況の食材の確保などが、企業さまや支援をいただける機関によって、当団体もご支援をいただけており、継続的な活動が可能になっている。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

備前市のこどもの居場所づくりを行っている団体同士のつながりがなかった現状から、声かけをしていき、まず交流会を開いて関係づくりを行う一石を投じることができたことは、大きな成果だったと思っている。備前市のネットワークはようやくお互いの関係づくりの第1歩を踏み出すことができた。備前市全体の居場所づくりの意識の向上に少しの効果はあったのではないかと感じている。

備前市のこどもの居場所のネットワークづくりを交流会や研修会を開設しながら行い、そのネットワークを活用して並行しながら、フードパントリーやフードドライブのやりやすい仕組みづくりを実際に活動や企業さまと繋ぎつつ、他の団体にも広げていくことができたことは、各団体の未開拓の部分をフォローできたのではないかと考えている。

また、それとともに実際に様々な機関と協働事業を行うことができたことは、備前市のネットワークでつながった団体の輪を外側から支えてくださる関係機関との関係づくりの第1歩を踏み出すことができた。今後の各団体の活動の継続性を持たせる1つになることや必要な方に必要な支援が届く仕組みづくりの厚みが増してきているようにも感じられる。

○今後の課題・展開

備前市のネットワークはようやくお互いの関係づくりの第1歩を踏み出すことができた。今後は、そのネットワークで頻繁に交流会の機会を持ち、情報交換を行ったり、研修会やなどを開設したりしながら関係性や意識・質の向上に努めたい。相談しやすい関係づくりを目指し、LINEなどを活用しながら、情報交換やフードパントリー・ドライブの取り組みがしやすくなるように工夫していく。

フードドライブの活動やパントリーの活動は、関係企業様や関係機関のご理解を得ながら、地道な活動を広げていかなければならない。様々な可能性を期待しながら、理解を得ていくことができるように継続して周知活動を行っていききたい。

ネットワークを活用しながら、また、こどもの居場所の「地域の交流拠点」・「居場所になることができること」・「多くの食事を提供できること」「情報交換の場になりうること」などの強みを活かして、災害時の避難や支援の拠点にもなることができるように、ネットワークで防災の活動にも取り組んでいきたいと考えている。具体的には、ネットワークでの炊き出し体験・防災時に役立つ研修会の開設を行いたいと考えている。

他の市町の状況を聞くとすでに社会福祉協議会などが中心となってネットワークづくりができているところもあるので、他の市町の状況などを把握しながら、他の市町のネットワーク同士とのつながり作りも行っていきたい。

○まとめ

今年度の集大成は、上記のことを落とし込めた「こどもの居場所マップ」の作成を手がけ、支援が必要な方にも、こどもの居場所を支えたいと思ったださる方にも、そしてお互いの団体同士にも必要な情報が詰まったパンフレットに仕上げる事ができたことである。

そのことで、更に活動や取り組み団体の周知・支援団体が必要とする支援についても周知を行うことができる一つの手立てとなったのではないかと思う。

今年度作成したマップの点がいろいろな場所でいっぱいになっていき、線となり、面になっていくことを目指したい。それが、地域に「こどもの居場所」が理解され、必要な場所として広がってきている証にもなると思うし、支援の必要な方に必要な支援を取りこぼさずに行うことができるようになるということにもつながっていくと考えている。